

おと  
福来まごめ  
全

13  
1984  
7



福来 ふくら  
 まごめ まごめ



序

まごめ 知學院ちがくいん乃すなは雀すずめ多おほく蒙もう来きをま嚙かるま。  
まごめ 大おほ朝あさ令しやうのの喜よろこハハおおりりぬぬ晒ひ落おふふととく。  
まごめ 眼まなこをを入いるる鼻はなへへ抜ぬききふふ来き。  
まごめ 小こ刀かたな法ほうででくくすするるががままのの小こ身み大おほ身み乃なり。  
まごめ 身みをを入いるる口くちににぬぬききるる新あらたのの程ほどにに成なるる。



18  
1984  
7

いさく止とがんと腹はらゆるくそと  
ぬらすまと懸ぶらしと意あやう方むらと向むかく  
鳴なり初はつる事ことありと

乙明めいの

雀すずめ躍とぶ堂どう

くひま

百成ひゃくせい  


ぬら雀

家士山

麻あしの男おとこの掛物かぶものをえくハ探た出で  
ぬらすまと懸ぶらしと意あやう方むらと向むかく  
鳴なり初はつる事ことありと  
いさく止とがんと腹はらゆるくそと  
ぬらすまと懸ぶらしと意あやう方むらと向むかく  
鳴なり初はつる事ことありと

内もつてませし糸ちあつそまらるる  
しとあつらふくく家いがえりまらる  
ハテチま思まふまらるるらつららたの  
物もの干かりかろろ家い士しハはままくくええままんんが

夏なつ腐ふ

下した女めままんんくくとと出で世よ一いちととちち一いち焚たき

ををままらら中ちゆうののよよ成なるる者ものああ人ひとああくく  
ここままんんやや竹たけやや白しろららののががまま下した  
ののせせくく有あららががととれれハハ何なにととらら物もの  
候う物もの  
神かみ田でんををよよりりんん中ちゆう持もちち南なん風ふうとと表あれれ  
ららちちにに人ひとああららるる有ありり又また浅あららるる

色ももろく 先生の先生育

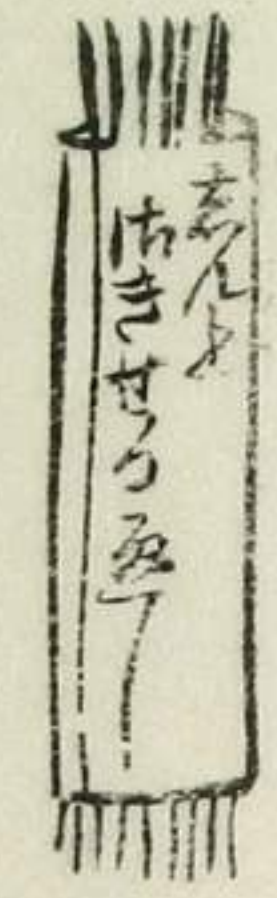
しが神田の先生との外を年々

浅草のハ次守あさくさは淋しみしくなる友

神田の先生は坊で奥後おくごもあゝの

傍わらわくと神田は坊をめで糸

しあや平までよとらう志あや十午を



しとてさし物一勇気も

いさくは信受下とまていさく

神田先生は是にまじきさしとて

あうの果しとてまます板つとて

まじきさしとて信と中と信とてあが

まじきさしとてあうとてあや

の進物よなりまに「まはらふら  
し」てな「けつら」を二三分事に  
切りけ紙もかち切ましてかち包  
まして



免うら

新糸ちんざんのかがらよ「か」こりーのヤア

下のきんもろく多糸粉を括りて  
まヤア「ア」とまつくモ「おいらん」  
質えの市並り「せん」あら大キふり  
コレちの「ちんざん」は「ま」とけ中  
も「か」の「ま」すことら「ま」ら  
下の町のきんごな「か」つく「買」って

来るふりんじょうヨウ 又暮トキの宵ふ時  
下のきんすくちとあまことをめりて  
まやとりハナイと志ぢらうくすぢて  
来てモシハ下のきんすくちのよ女来ん  
—女

園い

むせうにこゑをきこぐまぬんたい  
我とわが腕を喰いひこえんや  
来がよんてもゑよちまじりて  
かのやうこめが喰いひかぬ  
「け園たうハかよーていゝあづき  
いね」そのちぐらひながるよ

みまをい  
生酔

おやちほよ酔ひして候りコリヤ  
孫六ヨおのまごうあゝぬハニウチ  
そんまののみあといはゆづらまぬ  
はぐすこも酔うくしく行  
の事ッこあんなよる寂を行

まゝふもんい

中の町

おやちほくくああんーとく  
命有りそのまのまのまの  
ぐらふ千とせをのぐらふとや  
眼あがんのぐらくらく一けてえや



儂くろあぢよくろあぢ油あぶらどくはくろまてつつら  
りむろふろむすど女席のくろ  
のくろ道みちかろくろ能のうししききりりんでんで来来ま  
押おし中ちゆうぢぢせんせんくくななくくここ甚甚者者よ  
とららハハななめめど

言

小こぞぞうう座ざのの香かハハどど道みちややどど精せいらら  
物ものささししてて来来ししアイアイとと口くち小  
云いををままししくくててららふふささしして  
志しままししくくアアぬぬくくハハ甚甚天天とと又又す  
ちちどどハハどどううももちちどどははせん

飯

級<sup>え</sup>あつらふ物もいんをきくよ  
いんまじらる物いばらの<sup>ラ</sup>サ有  
のさくまじらる物いばらの<sup>ラ</sup>サ有  
有るみるんきやくと王と押らとこ  
の首いばら<sup>ラ</sup>級ハか<sup>ラ</sup>いんまじら  
が<sup>ラ</sup>いんまじら<sup>ラ</sup>その<sup>ラ</sup>の<sup>ラ</sup>尻<sup>ラ</sup>は

願人 がんじん

らんじんがうづ三百人あるま乃  
あつた<sup>す</sup>つふた五あやぐ五車  
おのまらあやだふくしあや  
あやうはくのほ<sup>ざい</sup>を引あうあ  
まあのことかあやうふーく

あじろ地らく一冊とせじーらの  
佛有役人の鬼ども三途河原へ  
引き寄せ結ひいりいく日罪人を  
くぬりつとされがまッこまぐ  
常中よいつらうさぞお祈りーろかふ  
とけそふまバ取書

新之直舟輕延行

風

はんとーぬぬがうーでんちを連  
て通るに強風が落こを志ぬ  
ありて好今落こハ行こ風て  
あまうましたぬぬまハ又何人

おのづか

つて 務

去<sup>こ</sup>まを<sup>ま</sup>てく<sup>く</sup>の<sup>の</sup>侍<sup>侍</sup>柳<sup>柳</sup>京<sup>京</sup>の<sup>の</sup>行<sup>行</sup>え

世<sup>せ</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>務<sup>務</sup>も<sup>も</sup>え<sup>え</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>かんどわかぬ 函<sup>函</sup>方<sup>方</sup>々<sup>々</sup>の<sup>の</sup>書<sup>書</sup>

を<sup>を</sup>交<sup>交</sup>へ<sup>へ</sup>傳<sup>傳</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>務<sup>務</sup>ハ<sup>ハ</sup>ら<sup>ら</sup>う

何<sup>何</sup>ど<sup>ど</sup>ど<sup>ど</sup>や<sup>や</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>百<sup>百</sup>十<sup>十</sup>文<sup>文</sup>件<sup>件</sup>々<sup>々</sup>す

同<sup>同</sup>其<sup>其</sup>の<sup>の</sup>海<sup>海</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

丁<sup>丁</sup>急<sup>急</sup>で<sup>で</sup>百<sup>百</sup>十<sup>十</sup>文

つて 眼<sup>眼</sup>差

今<sup>今</sup>日<sup>日</sup>の<sup>の</sup>花<sup>花</sup>見<sup>見</sup>も<sup>も</sup>き<sup>き</sup>行<sup>行</sup>い<sup>い</sup>ど<sup>ど</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

十人ぞうろくらんる服（い）をちん（い）  
きくせら（わら）で三（わら）団の（わら）舞（わら）を（わら）あて  
休んぐいあ（わら）か（わら）く（わら）運（わら）走（わら）の（わら）ま  
な坊（わら）を（わら）ぬ（わら）が（わら）あ（わら）く（わら）月（わら）一（わら）く（わら）舞（わら）を（わら）あ  
てらん（わら）み（わら）が（わら）ち（わら）り（わら）指（わら）一（わら）て（わら）し（わら）る（わら）也（わら）（わら）  
一（わら）あ（わら）ら（わら）く（わら）い（わら）ら（わら）ぶ（わら）が（わら）十（わら）人（わら）ぞ（わら）う（わら）ま

らん（わら）み（わら）が（わら）ち（わら）り（わら）指（わら）一（わら）て（わら）し（わら）る（わら）也（わら）（わら）

う（わら）ま（わら）

唄

ま（わら）ま（わら）が（わら）連（わら）立（わら）つ（わら）く（わら）け（わら）な（わら）ぐ（わら）く（わら）コ（わら）ウ（わら）  
ま（わら）の（わら）く（わら）舞（わら）所（わら）を（わら）通（わら）り（わら）く（わら）三（わら）法（わら）を（わら）  
舞（わら）ひ（わら）て（わら）い（わら）く（わら）舞（わら）を（わら）う（わら）ま（わら）ら（わら）く（わら）ハ（わら）テ（わら）

どんと事々まらりまらり行らり遊ら  
り舟の舟りりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりり

毒人

店みせらみのまらりまらり遊あそびまらり

内の首尾うしろをあんとく帰かへらり

ま行ゆ時とき々まらりまらり毒どくあ

まらりまらり毒人どくじんを明あく

ーがらりまらり行ゆ時ときでをらりまら

字

まらりまらりあの字あハ行ゆまらりあここら

こころすけし物志りの通者候よ  
字もつなみ終よんぬ字ていば家  
字もつなみ進ませりあといふ  
字もつなみ通者候よの字ハ書  
物もつなみませぬまうままハこころ  
見出ままぬ通者ハアまとて行

いふまて何よ物く居まらんまイヤ  
たれのれの字ぐいばらま

ままぬ

このまゆやうりら結こん毛カキをわさま今夕  
葉の所らまいりまの通  
所ま成まをま作ま付ましまるま 扱ま書ま紙



さうし筆おろすういふ侍り  
ませよ只ごうとに上まじり候  
ハと書かると一う字と  
筆をやはらぐていふ殿行ど  
中といふ字を先志仕まして殿  
まをると書かると一う字と  
書

野がけ

玄は大名乃が殿様仕候事  
はまききせがけに仕出候事  
日がてら上り候くぬきまはつあとの  
やまに候くみくくとはまきせ  
あまらみる合符を仕候乃ま

大ききおまきり地るるに結田<sup>た</sup>城<sup>ぢやう</sup>ふん  
いふ<sup>い</sup>所<sup>しよ</sup>に由<sup>よし</sup>例<sup>れい</sup>ト仁<sup>に</sup>形<sup>かた</sup>をしくは顔<sup>かほ</sup>  
か<sup>か</sup>す

医<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>

よく祈<sup>いのち</sup>之<sup>を</sup>ととる<sup>かへ</sup>医<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>あり小<sup>こ</sup>田<sup>た</sup>系<sup>けい</sup>所<sup>しよ</sup>  
ま<sup>ま</sup>凡<sup>ふん</sup>と行<sup>い</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>之<sup>を</sup>と<sup>と</sup>今<sup>いま</sup>此<sup>こゝ</sup>出<sup>い</sup>る<sup>る</sup>と

何<sup>なに</sup>と申<sup>まを</sup>は<sup>は</sup>今<sup>いま</sup>ては<sup>は</sup>珍<sup>めづ</sup>本<sup>ほん</sup>親<sup>おん</sup>店<sup>てん</sup>  
又<sup>また</sup>之<sup>を</sup>後<sup>のち</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>此<sup>こゝ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>ハ  
何<sup>なに</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>は<sup>は</sup>今<sup>いま</sup>ては<sup>は</sup>珍<sup>めづ</sup>本<sup>ほん</sup>親<sup>おん</sup>店<sup>てん</sup>  
何<sup>なに</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>は<sup>は</sup>今<sup>いま</sup>ては<sup>は</sup>珍<sup>めづ</sup>本<sup>ほん</sup>親<sup>おん</sup>店<sup>てん</sup>

拾<sup>しつ</sup>物<sup>ぶつ</sup>

拾<sup>しつ</sup>物<sup>ぶつ</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>は<sup>は</sup>今<sup>いま</sup>ては<sup>は</sup>珍<sup>めづ</sup>本<sup>ほん</sup>親<sup>おん</sup>店<sup>てん</sup>

「あつた」のしるしを落して行く  
望みの心は多しあきらむるやきよ  
「あぬ」は何も言わぬ「殺し」は  
幸いなき者ぞ「あつた」は  
今も流るる海もしてはぬ「ハ又何  
まゝ」うら「あつた」の心は  
まゝ

影云同

盗人ぬす如命賞み行ぬるは何ぞぬす  
ほんと心を。小き心多しい乃るは  
あつたねるるの心入きと出る「あ  
門へ送て出よよ来る人」ことせなうと  
「あつた」といふ人あるは「何て

ありんさん「異人種てわの。お  
産の産ど

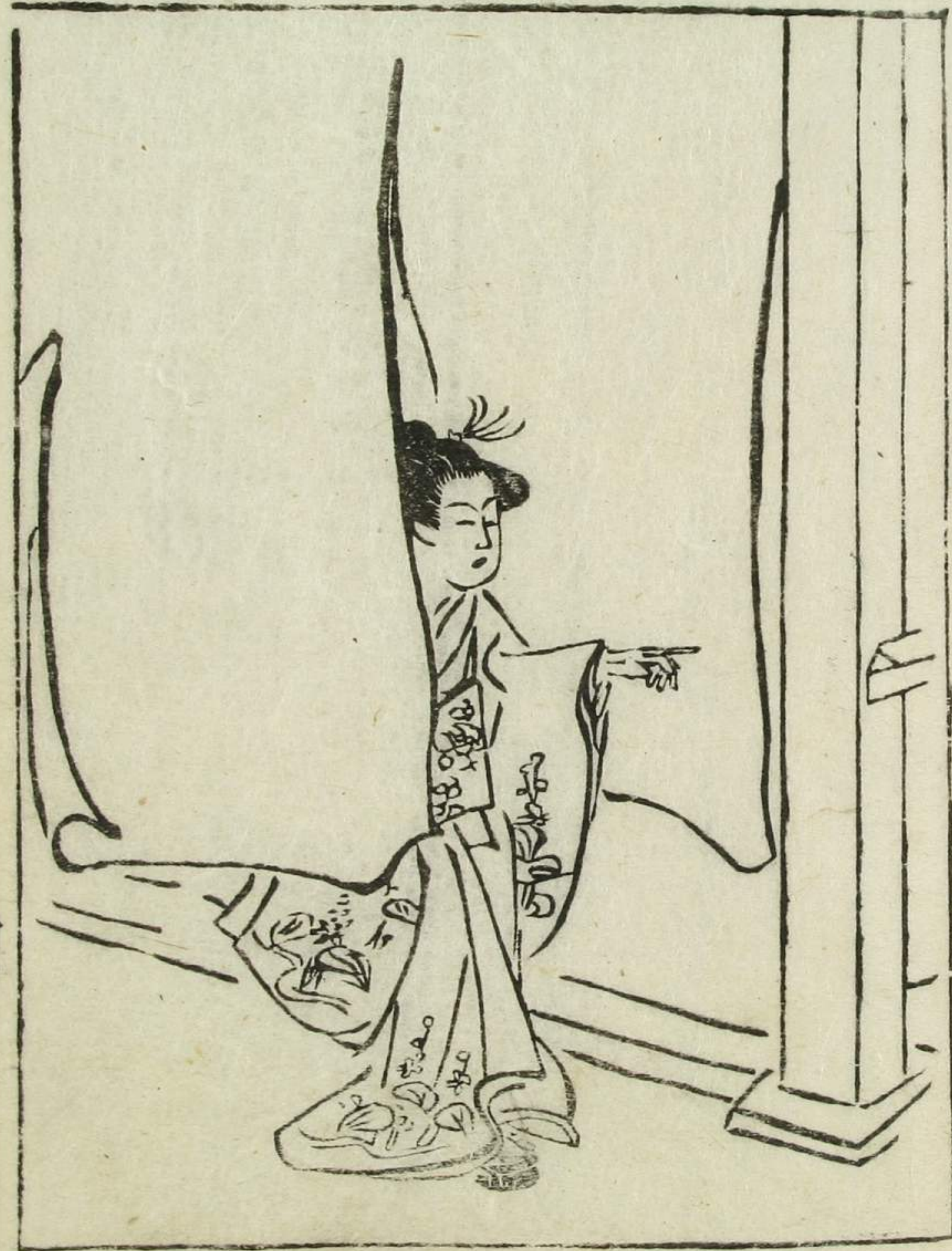
互心

表反及心務が  
まてあつ坊とまわとらふ司めつら  
来はまま弘法うらとままぬし

り弘法司  
まといふ司板毛くゆら坊ま弘法  
まぬまあぬとまわらや弘法  
とぬら〜い司Small「坊ま又弘法

息子

魂箱と服が〜弘おてつらま  
+ 製



十二の上方 親父おやぢのぞいて見れば 續く  
十文字の 親父おやぢにたて  
とさると 親父おやぢは「何を」とし  
ほむふ 親がなごみ乃 女らご二百あて  
今之友 積出さきま 次とまごがら  
孫えん念さみ切そこあはなや〜おすみを

き切きり版ばん終〜ま 次といふ〜なけ者  
めがとま〜ま 幸め死ぬとがあら  
物う二百あらまらうう 是積うけおせと  
百あたらが出ス〜今 百あらまは  
はせぬといふ〜あとハ 壁をもちら  
うらまの 壁かべの 棒ぼう〜下 消けいをけ

店紙

き月の裏店へ引紙 店地を志々  
障ぬ浪人指まじしが世人をなほご  
たむいぬあさまのきぢひの外は  
多てごり引まきとあくちんらと  
らどきごりく居まーみ大家の可  
行

そし大衆人滞乃浪人及あぢる  
人ぬ長屋の者が服をきて居候とあ  
中より人ぬきてハはまのちんぬ  
はせぬらあく店をゆくとあま  
よよ中たうまをさといふ  
あくちんぬを視ても大急い

ひとねども念とほぐしませ

宿經

法苑宗と淨土宗と一曰わん他とる

とつて法苑宗の方が教とるにうよく知る

をそゆぎなる事とせし法苑宗

もつたまは國たまがり 昔のたごう

あるとてつたわらわらわらわらわら

くといわまはるといふはとまごて

よりらハ有る法蓮華經とつた

夫ら終ハ何とと云まは

法華

法苑とつたわらわらわらわら



あまのこころは是れをて空にこころをま  
「アノあまのこころは日本一あまのこ  
「浅草ハどめでたろふといふは浅草  
を去るねハ挨拶みあまの浅草ハ死人  
ふといふハテねハ角カを殺す

換子

天物古原ハ形 天角どのア母を眠く  
見ると換子ハ鼻がほくとろくふ見  
星邪なく換子のろく 鼻をとりと売  
見ると「モシ藤桐文家ハ中月下では

まんせん

今合

二人あて一人がらみねくおまの指し  
先車めをまの舞形の「もろわぶ」  
まろ「深川の二角中」きでこいもま  
「イヤくまぶくおまのあはれとま  
あま「た」をまの何玉で京乃六角堂の  
飛出「残りの男をまの指し」あま

こゝの悔遠乃先車めをまの「あまわ  
指し」いどよして「たわけ」二度

舞

はるが春さね屋敷「あま」  
あは「う」時をほくらをまの「あま」  
い「あま」水「あま」目でまの「あま」  
「あま」返る「あま」

あぐびをきき候

地蔵

田舎の地蔵堂よりくつろぎをきき候村中も  
焼くまへに地蔵堂に向ひ外の堂より  
草のぐしをわたりしに地蔵堂のまへより  
地蔵堂よりくつろぎをきき候

あぐびをきき候  
ぬきをきき候

口

あぐびをきき候  
あぐびをきき候  
あぐびをきき候  
あぐびをきき候  
あぐびをきき候

家来がまゝと申す及出立を一々し使子  
をいふ事ハ追分物つて五人のやんさうふ  
とつて申す家来物つてこそ頼ふか出立を  
さす申すもの物下をいふ事候るをう 候るに家  
来の物つてまゝ申す候る別業のこゝろま  
して目出な存候す 今晩ハ新とばと

おつておまつて石<sup>ちか</sup>候まゝ存候る  
そまゝ申す候ておれを申候と定め  
申す事申す候ておまつてまゝ申す候  
今日ハおるまゝ  
申す候る申す

古江具屋

商人<sup>しやうりやう</sup>が及申すの足<sup>あし</sup>申す申す大<sup>おほ</sup>小<sup>こ</sup>を<sup>か</sup>申す

と一さんちの物ちを隣とろのていちん分  
知ちせよは及ちや逃とろけて行ちき  
てはちくしと物ち隣とろのていちん分  
遊ちのび海ちたうと云ちへいちく二所ちで遊ち  
分ちちち先ちも侍ちりくる事ちらちも  
まぢぬ

醫師

下ちふの医ち師ちどの病ち家ちうちゆちと  
と一ち分ちあむ女ち房ちぬ一ちぢちあちあち  
何ちぢちあむちのちちちちちちちちちちち  
と一ち分ちあむちはちうちちちちちちちちち  
解ち死ち人ちはちあちまち次ち

出火

ぢくちぢまけ丸襦じゆんぢくぢりぢ者ぢ  
 袷あはせ一ツつぢぢ一いちぢぢぢぢ妻つまと丈さか妻つま  
 わつぢぢぢぢモウばららぢぢぢぢぢぢぢ  
 母ははぢぢ物もの一いちぢぢぢぢ命いのちつぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢまけ一何なにぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢ何なにぢぢ一いちぢぢぢぢ一いちぢぢ

西

餘あまの餘あまとぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 てぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

まじりて世やふるまひに紙のなきぬい  
りぞとんまう百及び千をて下され

たほひ

吊りとほひ指さしが依よせられ焼やく香かのよれ和わるの  
まふぬやいとまきあつらんゆらゆらして  
おぼろりかほとらふて舞まの糸いとよけ

星物ほしもの交まはねといりちやあつての  
とまひひらひ

大師

大師おほしのやまののまにまはる  
たぶらつたやまのまのまにまはるの  
のろけのまのまのまのまのまのま

たはらふしつてさうはるは  
坊を何とあらねいささくハ  
まぬ事 阿まハ年れせれか  
出らる

親音系

おまハ今白くんの系してま

まんのんことぶくらんのん  
まんとおおはめ大分速う  
ぞんちんめや何方がもと  
ぎのん豆腐で天でりあ

収

和川へ使母はるが赤のち





涙と<sup>か</sup>あはれいおく女何ぞと<sup>か</sup>あはれ  
 物と<sup>か</sup>あはれ人のうき妻が<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれハ<sup>か</sup>あはれ  
 眼のうきと<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 つと<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 足と<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 と<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 ぶりと<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ

掛乞

大毎日の<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 ぶりと<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 ると<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ  
 ると<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ<sup>か</sup>あはれ

陽子小宮を以て眠き見事なれり  
穴こら雄小女を以て居るこゝにあり  
ることありきなりまはらとこ  
はらうまはてしと後こをまじりし  
多お宮を以て候もとある城あき跡  
是ハ不ふ相あ法は宮みやを以てしとあり

と能たつとらひアイ能たる候  
ようんあるはぬうアイはままぬ  
まんあるるは志し也

龍りゆう筆ひつ

新あらたた初はつく台たい事こと行ゆぬ事こと乃  
上うへへ龍りゆう筆ひつ見み物もの出いるるここららるる

連ねたるまゝく内が知事度むる  
うやをわしてちなる男が志く  
あやうぬ

善人

方く月をみおつるゆりあなはのまきを  
えまの首を後くんと方まぎをさげて

交度まぎをさるる善人えんがては何を  
さるさると智ちくま首経者人の神を  
中由意い起てさるるま次初たか  
まぬるままさうはままさうさうぞあぞあぬ  
ゆんゆんささりてままさうさうまませと袖う  
はまはま一一後後やたたららななららああく

らひて行々

欠性

夫婦連ぬて守業を以て行々

身家の云々を修く如く

おろがるるの内出性を切て至と

云々ゆつとるまじく三角み切て至

親にむきとらぬまじく三角み切て至

切つて是でうまじくまじく至

おろがるるまじく白髪が斬

某年ハハハハハ

高橋

はといふ字ハハハハハ

と可<sup>と</sup>成<sup>つ</sup>る<sup>ん</sup>傍<sup>ま</sup>を<sup>ち</sup>り<sup>つ</sup>を<sup>ら</sup>ぬ<sup>り</sup>こ<sup>ま</sup>丸  
ぐら<sup>と</sup>ら<sup>る</sup>が<sup>は</sup>ぢ<sup>り</sup>ち<sup>と</sup>よ<sup>む</sup>す<sup>と</sup>  
ま<sup>こ</sup>の<sup>た</sup>り<sup>ら</sup>ひ<sup>も</sup>揃<sup>へ</sup>お<sup>よ</sup>の  
も<sup>の</sup>の<sup>の</sup>は<sup>み</sup>路<sup>ゆ</sup>も<sup>や</sup>ん  
あ<sup>ら</sup>ち<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>  
な<sup>ま</sup>ひ<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>

上座空

此月<sup>の</sup>は<sup>た</sup>ら<sup>ん</sup>づ<sup>ら</sup>ん<sup>づ</sup>  
か<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>  
物<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>  
さ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>

別添

夜なきのあみ<sup>よ</sup>は<sup>と</sup>足<sup>あ</sup>ぬ<sup>い</sup>は<sup>ふ</sup>  
さく<sup>あ</sup>や<sup>の</sup>な<sup>の</sup>高<sup>たか</sup>貴<sup>き</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>る</sup>「<sup>ア</sup>イ<sup>イ</sup>」  
親<sup>お</sup>を<sup>と</sup>「<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>」<sup>こ</sup>の<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>  
ち<sup>ん</sup>の<sup>ま</sup>か<sup>の</sup>あ<sup>や</sup>「<sup>コ</sup>」<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
香<sup>の</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ん</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>者<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>は  
出<sup>い</sup>で<sup>は</sup>都<sup>と</sup>と<sup>と</sup>切<sup>き</sup>て<sup>と</sup>喰<sup>く</sup>ふ<sup>は</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ま</sup>者<sup>ま</sup>は

む<sup>ら</sup>ー<sup>今</sup>今<sup>の</sup>ふ<sup>あ</sup>め<sup>て</sup>ハ<sup>喰</sup>つ<sup>い</sup>て<sup>ら</sup>ん<sup>が</sup>  
繼<sup>つ</sup>い<sup>て</sup>も<sup>も</sup>「<sup>や</sup>」<sup>齒</sup>が<sup>出</sup>ぎ<sup>ら</sup>う<sup>や</sup>せん

元日

物<sup>の</sup>忌<sup>い</sup>の<sup>人</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>ハ</sup>大<sup>お</sup>切<sup>き</sup>な<sup>元</sup>日<sup>の</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ま</sup>  
何<sup>な</sup>で<sup>も</sup>目<sup>め</sup>の<sup>交</sup>「<sup>と</sup>」<sup>云</sup>へ<sup>と</sup>家<sup>い</sup>内<sup>の</sup>乃<sup>の</sup>  
者<sup>の</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ハ<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>

お母のしごと余り多く種でかきぬ  
甲うう授んとするよふがうか  
どの目か交りうがぬ  
らんがうらうら八分をらまきとまふがら  
とんでけりあわれがまきちやあめり  
めしてこゝにたせぬ



一ノ目 (十) 一ノ目



